

農園部会だより

●里山農園のモンズズメバチの巣 8月2日(土)に撤去 焼却できました。

土曜日の農園作業日に森島 金田 播川さんと中学生の中沢君が10号地の巣箱を出入りする蜂を観察して飛び出していったハチが巣に戻ってきたらしいと判断した頃合いを見計らって入り口をガムテープでシッカリ



ふさいで焼却処分をいたしました。これで何事もなくなり

安心して草刈りや成果物（ナス・万願寺・トウガラシ等）を採取出来ました。里山農園には巣箱が3個取り付けられていますが、今のところ小鳥の入室はなく空箱になっています。これからはハチなどの格好の巣つくり利用されるかもしれませんので注意をしながら農園での作業をしてください。



●里山農園の草刈りを実施 8月5日(火)

8月に入ってさらに暑い夏が続きます。この暑い中ですが斜面や通路、畑の中の雑草は暑さをものともせず成長を続けています。成長のスピードは驚くほど速く7月10日頃刈取ったものが写真のように丸山を覆いつくしてきています。昆虫観察会も夜の生き物調べも無事に終わり、ここら辺りが刈り時ではないかと3人で草刈りをしました。中学生の中沢君には昨年に植樹をしたクヌギの若木の周囲の除草をお願いしました。



●文化協会から講師料をいただきました。

7月26日の「京田辺市の自然を知ろう」の取組でささやかではありましたがお話をさせて頂きましたところ、協会から思いもよらない講師料が届けられました。また工作进行を指導しました材料費も併せていただきました。いずれもこれからの活動費の一部に使用させていただきます。ありがとうございました。ご参加になられた皆様のご感想をお寄せいただければ大変参考になります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

●結成30周年記念事業へのご協力のお願い

桜谷先生より、結成30周年を記念する取り組みとして、会誌『里山の自然』第1号から第58号までの総目録の編集を試みてはどうかとのご提案がありました。

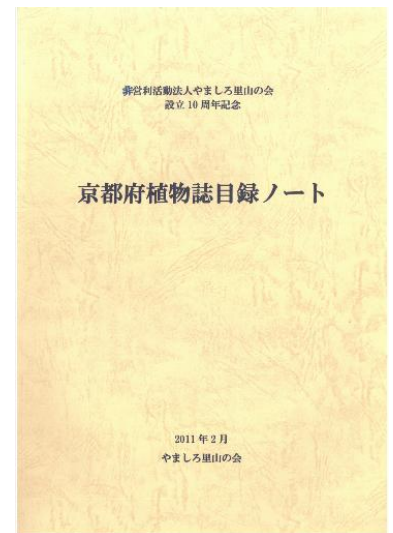
この作業は、植物・生き物・里山農園などのテーマごとに分類しながら、50冊以上の会誌を読み解いて整理するという、非常に膨大な内容になります。だからこそ、多くの方にご参加いただければ、個々の負担も軽減され、より充実した成果が期待できます。皆さまのご協力を心よりお願い申し上げます。

過去の事例として、上島裕さんが現役時代に京都府内の植物愛好家や諸団体が発行してきた植物関連の冊子を収集されました。最も古いものは昭和16年の文献で、積み重ねると高さ1.3mにもなる膨大な資料でした。上島さんはそれらを一人で丁寧に読み取り、資料としてまとめられました。

その後、里山の会では、パソコンの操作を習い始めた方も含めて協力し、原稿をデータ化する作業を進めました。こうして完成したのが『京都府植物誌目録ノート』です。これは今も貴重な資料として活用されています。

この経験から、里山の仲間にはパソコンに精通した方も多くおられます。今回の目録編集も、決して難しい作業ではありません。モデルを作成して進めていきますので、ぜひお力添えをお願いいたします。

現在、この目録ノートは10冊ほどが手元に残っており、原本のコピー資料も1組保管されています。ぜひこの機会に一度手に取ってご覧いただき、資料の価値を感じていただければと思います。皆さまの知恵と力を集めて、30周年にふさわしい記録を残しましょう。



●京都生物多様性センター友の会の設立について

8月6日京都市役所の会議室で14人の出席者で会議が開かれました。議論になったのは2026年5月に発足総会の開催を行うことが確認されました。友の会は保全団体及び個人の親睦を深める事、次世代の担い手育成、自然環境の保全と活用を目的にして設立されています。この日の提案は事業内容や運営体制と会費について等があり、活発な議論がされました。そして当面のスケジュールについて第3回の生き物フェスタが果たす役割の重要性が強調されたと感じました。

これまでの曲がりなりにも継続してきた自然環境保全ネットワークの解消ではなく継続すべきとの意見も発言されました。提案では自然誌博物館建設の課題が後に位置付けられていることに強い異論も出されました。友の会の発足に向けたスケジュールの中で1月の七草摘みの会などが取り上げられていました。

出席者は里山の会とは顔見知りの方々が多数おいででした。竹門・宮崎・西野・清水・伴・宇野さんと京都市役所の職員と生物多様性センターの皆さんでした。

